（1）　明治20年創刊　第35437号　（第３種郵便物認可）　（日刊）

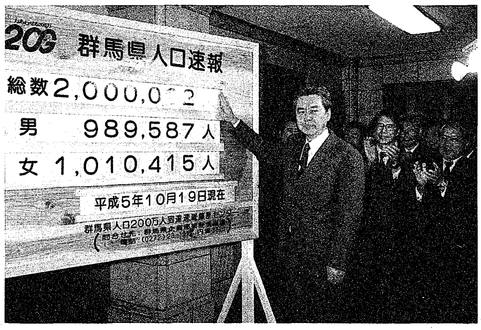
上毛新聞

発行所（〒371）前橋市古市町1―50―21
上毛新聞社
電話 前橋(0272) 51―4341(代表)
夜間(6時以降)・休日電話
編集) 51―4343・4344
広告・販売) 52―5542
事業) 52―5549 (出版) 51―4347
制作) 51―4345 (発送) 51―4363
© 上毛新聞社　1993

県人口200万人に

全国で19番目

県、市町村で347事業　到達日ベビーに記念品



県人口が200万人を突破し速報表示板に数字を入れる小寺知事＝県庁正面玄関

県人口が十九日、二百万人を突破した。県の県人口二百万人到達速報集計センターが同日午後四時現在で七十市町村から報告された移動人口を集計したところ、県人口は二百万二人（男九十八万九千五百八十七人、女百一万四百十五人）となり、ついに大台に乗った。「二百万人県」の仲間入りは、昭和五十八年九月の岐阜県に続いて全国十九番目。小寺知事が「二百万人達成」を宣言すると、県庁には祝賀のけん垂幕が掲げられた。また、県は到達日に生まれた赤ちゃん募集や飛行船による二百万人到達告知など各種イベントの実施を発表した。（関連記事　社会面）

県人口は十八日午後三時現在の集計で「あと百六人」になっていたが、十九日午前十一時現在で「あと五十三人」に迫った。さらに、午後三時現在の集計で五十二人増え「あと一人」となったため、集計センターは急きょ七十市町村に午後四時現在の報告を要請。その結果、三人増えて二百万人を突破した。

午後五時半から県庁の正面玄関ホールで〝二百万人達成発表〟のセレモニーが行われた。小寺知事が満面の笑みで木製表示板に二百万二人の数字をゆっくりと組み入れると、集まった約三百人の県職員から大きな拍手が送られた。続いて、小寺知事は「おかげさまで本日、群馬県が二百万人に到達しました」と発表。「二百万人が力を合わせて、次の新しい時代をつくって行こうではありませんか」と県民に呼び掛けた。

この後、県は二百万人記念事業を発表したが、県と市町村の記念事業は計三百四十七件に上っている。

到達日出生の赤ちゃん募集は、親が本県に住所があるか、本県で生まれた赤ちゃんが対象。来月十日までに応募すると、県産のトチの木で作製した記念ジグソーパズルが贈られる。また「二百万人の日クイズ」の抽選会は二十一日、前橋・群馬会館で行われる。二百万人目の県民の発表は二十六日前後の予定だ。

飛行船による告知は二十七、二十八の両日、中毛、東毛、西毛、北毛の四地区で一日三時間ずつ二回実施。二百万人到達を記した全長十七㍍の飛行船をラジコンで操作する。十一月十九日には、マーチングバンドなどによる記念パレードを県庁周辺で行う。このほか、本県出身の小栗康平監督による記念映画の製作、記念碑も建設される。

また、記念祝典は来年五月十四、十五の両日、前橋・県営陸上競技場で開催する。野外フェスティバル形式で、県民総参加で二百万人到達を祝うことにしている。

各界も歓迎

県人口の二百万人突破を県内各界でも歓迎している。

柳沢本次県議会議長は「明治から平成に至る長い歴史の中で、先人が厳しい試練を乗り越え、努力を重ねてきた賜物（たまもの）。県議会も地域特性を生かした活力ある郷土づくりのため、県民の皆様とともに努力を重ねていきたい」と本県発展の歴史を振り返りながら喜びを表した。

また、山本達司県市長会長は「県民として待望の二百万人突破を心からお喜びしたい。景気低迷に加え、コメの凶作という暗い話題が続いていた中で、大変明るいニュース。二十一世紀へ飛躍するため、十一市も県政と手を取り合っていきたい」と語った。

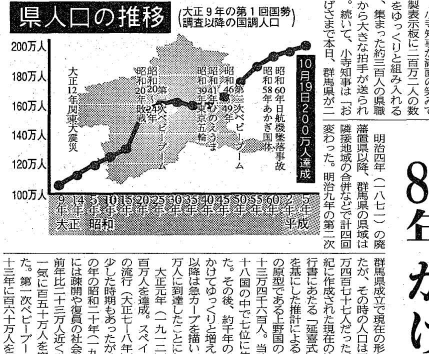
黒沢丈夫県町村会長は「県政の発展は同慶の至りだが、子細にみると過疎化が進んでいる町村もあり、県全体のバランスがとれた発展に大いに力を注いでほしい」と過疎地域の活性化策を改めて要望していた。

さらに、牛久保海平県商工会議所連合会長は「人口の増加は群馬の発展につながり、喜ばしいこと。これを契機に首都圏の一角という地の利を生かし、産業を振興して魅力ある古里づくりを進めてほしい」と話している。

200万人突破特集　8―9面

県人口の推移

（大正９年の第１回国勢調査以降の国調人口）



81年かけて倍増

100万人は大正元年

明治四年（一八七一）の廃藩置県以降、群馬県の県域は隣接地域の合併などで計四回変わった。明治九年の第二次群馬県成立で現在の形となったが、その時の人口は五十四万四百七十七人だった。十世紀に作成された現在の法律施行書にあたる「延喜式」などを基にした推計によると、県の原型である上野国の人口は十三万四千六百人。当時の六十八国の中で七位に位置した。その後、約千年の歳月をかけてゆっくりと増え、明治以降は急カーブを描いて二百万人に到達したことになる。

大正元年（一九一二）には百万人を達成。スペイン風邪の流行（大正七―八年）で減少した時期もあったが、敗戦の年の昭和二十年（一九四五）には疎開や復員の社会動態で前年比二十三万人近く増加、一気に百五十万人を突破した。第一次ベビーブームの二十三年に百六十万人を超えたが、その後百七十万人の道程は長かった。三十一年からは高度経済成長の影響で京浜方面への転出者が多く、三十三年には再び百五十万人台を割り込んだ。しかし、四十年代前半から企業進出などを背景に社会増が顕著となり、第二次ベビーブームの四十八年には百七十万人を達成した。

百八十万人は五十三年、百九十万人は五十九年に突破。その後、一年間に一万人前後の増加を続け、昨年八月一日現在で百九十九万人を超えた。今年九月一日にはあと千三百六十九人となり、県は統計情報課に集計センターを設置、七十市町村と連携して速報態勢をとってきた。平成二年十月一日の国勢調査では、県人口の伸び率（昭和六十年調査比）は二・三％と、全国平均の二・一％を上回る十五番目の伸び率を示した。

今後は二百十万人の到達時期が注目される。県の総合計画「新ぐんま2010」（平成三年策定）では七年後の十二年としているが、景気低迷や少子時代の到来など不確定要素も多く、同年の達成は微妙といえそうだ。

「太田に工業試験場を」

県商議所連合会　支所誘致を採択、陳情へ

県商工会議所連合会（会長・牛久保海平伊勢崎商工会議所会頭）は十九日、太田市内で第三十五回議員大会を開き、平成七年に同市吉沢の太田リサーチパーク内に建設される予定の「ぐんま産業高度化センター」（社長・小寺知事）に県工業試験場太田支所を誘致する議案を採択した。近く県や県議会に陳情する方針。（関連記事　6面）

同連合会によると、県内屈指の工業都市の太田市周辺は中小企業が多く、激しい生き残り競争の中で新製品の開発や加工の高精度化、コストダウン、環境問題への対応など技術革新が求められている。このため、研究開発機能や技術支援体制を持つ公設の試験研究機関を必要としており、産・学・官の技術交流の拠点にもなるとみられている。

県工業試験場（前橋市鳥羽町）は県商工労働部の出先機関で、現在職員数は三十八人。技術開発、研究の傍ら企業の相談を受けたり、人材育成事業を展開している。支所はなく、太田に設置されれば初めてとなる。

太田リサーチパークは、国の頭脳立地構想に基づく産業高度化事業として県が造成工事を進めている。約二十㌶の広さがあり、情報関連産業や研究所が立地する予定。同事業の推進母体となるぐんま産業高度化センターは第三セクター会社で、既に太田市内に事務所を設置して活動を開始している。県工業試験場誘致は太田リサーチパークの設置に伴い、ソフト面の支援を求める太田市内の企業から要望が出ていた。太田市経済部は「地域経済にとって有意義な研究機関であり、側面から支援していきたい」としている。

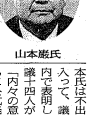
鳥獣保護区にみかぼ森林公園

来月から

県自然環境保全審議会自然環境部会（部会長・新井房夫群大名誉教授）は十九日までに、県から諮問された藤岡市上日野の県立みかぼ森林公園（二百五十五㌶）を鳥獣保護区にする計画を審議、原案通り答申することを決めた。県は十一月一日から同公園を鳥獣保護区にする予定で、県内では五十二カ所目となる。

県議選くら替えか

山本草津町長　町長選不出馬の意向



山本巌氏

来年一月に予定される吾妻郡草津町長選で、現職の山本巌氏(六二)＝二期＝が不出馬の意向を固め、町議らに表明していることが十九日までに明らかになった。

町議会関係者によると、山本氏は不出馬の考えを今月に入って、議員研修先の栃木県内で表明した。この席には町議十四人が出席、山本氏から「内々の意思表示で、近いうちに公式発表する」と説明があったという。町内では「山本町長は再来年四月に予定される県議選にくら替えする」との見方があり、県議選出馬に向けた動きと受け止める向きもある。

山本氏は先の町議会九月定例会で、町長選について何らかの意思表示をするとみられていたが、沈黙を守り、その後も公式には一切口を閉ざしている。

同町長選には、町議でホテル社長の市川紘一郎氏(五二)が出馬を目指して準備を進めており、山本氏と一騎打ちになるかが注目されていた。

山本町長の任期は来年一月二十九日で、年開け早々にも町長選が告示される。

新党とも協力関係

連合群馬が運動方針案　会長候補に井垣氏浮上

[illegible]合群馬（中沢光男会長）[illegible]九日、北群馬郡伊香保町[illegible]行委員会を開き、今後二年間（一九九三―九四年度）の運動方針案を確定した。連合群馬結成以来の懸案だった政治課題については特定の支持政党を持たず、政策を基本とした協力、協調関係の構築を目指すほか、組織拡大に向けた新しい産別加盟方式が打ち出され、十一月八日の定期大会に諮られる。

同方針案は、二大政党制を目指す連合中央の新運動方針決定を受け、従来の社公民路線に準じた政党との固定的な関係を改革。具体的には政策の協調を基本に、新生党、日本新党など新政党とも協力関係をつくる道筋を敷いた内容となっている。また、産別加盟では二年後の加盟組合員十五万人達成を目標に未組織組合の吸収を図り、業種の枠を超え地域単位などで加盟する「一括参加方式」と、加盟する産別がない組合を対象とした「特別参加方式」を導入する。

一方、定期大会に向けた役員改選については、会長の中沢光男氏(四九)＝電機連合群馬＝が健康上の理由から退任する見込みで、役員推薦委員会が改選公示の今月十四日から新執行部役員の人選を進めている。新会長には副会長の井垣美斎氏(五〇)＝自動車総連群馬＝らが候補に浮上しており、同委員会では公示最終日の二十二日までに加盟三十八産別との調整を行った上で選考を煮詰める方針だ。

厚生大臣表彰に海野氏

平成五年度理容師・美容師養成功労者厚生大臣表彰が十九日決まり、本県から群馬理容学園群馬県理容高等専修学校長の海野信利氏(五四)＝高崎市根小屋町＝が選ばれた。被表彰者は全国十九人。表彰式は二十六日、東京・新宿の東京厚生年金会館で行われる。

群馬地理学会が来月発足

高経大で設立総会

[illegible]域の現状や問題を幅広く研究する「群馬地理学[illegible]が十一月二十一日の設立[illegible]で発足する。メンバーは小中高校の教員を中心に[illegible]般県民を含めて組織、研[illegible]表会の運営や学会誌の発[illegible]巡検（現地調査）などを[illegible]学会は今年一月から準備[illegible]会（委員長・山内秀夫群[illegible]育学部教授）が発足の準[illegible]始め、これまでに群大教[illegible]部地理学教室や県高校教[illegible]究会地理部会の教員ら約[illegible]が参加を申し込んでい[illegible]地理学の分野に限らず、[illegible]民俗、経済、生物、エ[illegible]ギーなど多方面にわたっ[illegible]地域にスポットをあてた[illegible]活動に取り組む。

[illegible]道府県単位の地理学会の[illegible]は関東では埼玉、千葉に[illegible]三番目。総会は高崎経済大で行われ、役員選出などとあわせ第一回の研究発表会が開かれる。

高経大附高の学区で再協議

あす県教委

県教育委員会（小関博委員長）は二十一日、協議会を開き、高崎経済大附属高校が導入を目指している「通学区の自由化」問題を話し合う。

この問題は十四日にも協議されたが、公立高が全国から生徒を募集をすることが妥当なのかどうかを中心に多くの意見が交わされ、認めるかどうかの結論は持ち越した。このため、引き続き意見調整を行って、内容次第では委員会に切り換える予定。

学区の自由化は通学区を設けず、生徒を全国から募集するという内容。実施するには県内の通学区域を定めた「通学区域に関する規則」の改正が必要なため、県教委協議会で取り上げられた。

三山春秋

県の人口が二百万人に達した。ことしのプロ野球リーグ優勝を決めるM（マジック）1が消えるのに等しい足踏みとも思えた▼多くの人をやきもきさせた。それだけ記憶に深く刻み込まれる日に違いない。明治四年の廃藩置県で現県名が初めて付けられた日を根拠に設けられた、県民の日(10月28日と昭和60年制定)と同様、記念すべき日である▼英国の経済学者のマルサスは一世紀半前に〝あらゆる人口論の原典〟といわれる『人口論』を書いた。「人口の増加の方が食糧の増加より、いつも大きい」の核心部分が有名である。もっと正確には「人口は幾何級数（等比数列）的に、食糧は算術級数（等差数列）的に増える」である▼従ってアンバランスが生まれる。これは自然法則で結果として、貧困、疾病、戦争が起こる。これを抑制するのは個人の責任―と論じた。牧師のマルサスは当初、匿名で発表した。当時の英国は資本主義が徐々に進み、貧富の格差が増した時である。マルサスは人口が増えることを一種の恐怖とみた。その後の産業の発展を知れば、どう言うか▼その時代とは全く違い、人口増は県勢の〝ある種の目安〟として歓迎すべき現象ではあろう。本県の人口は戦後ずっと緩やかに増加の一途をたどった。自然がそれほど激しく破壊されたという場所もなかった。これは、首都圏にあって希有である▼転勤などで一度でも本県に住んだならば、動きたくないとさえ言う住みよさは知られている。上州の上をとって〝上の国〟という。定年後、再び県内に居住する人を幾人も知っている。そのような定住者を裏切ることのないよう、自然破壊などに出合うことのないよう、心に期す機会ともしたい。

主なニュース

- ロ、きょうにも再投棄（2面）
- マル優の不正61万3000人（3面）
- ハイチ制裁決議が発効（4面）
- 求人倍率3カ月ぶり低迷（6面）
- 他用途米、大幅値上げ（7面）
- 伊の〝姉妹〟から訪問団（18面）
- 利根村に新変電所建設（19面）
- 不正に出玉率アップ？（20面）

読者センター
電話 0272(52)1122
ファックス 0272(51)4334
ご意見、情報をお寄せください
午前10時から午後8時まで

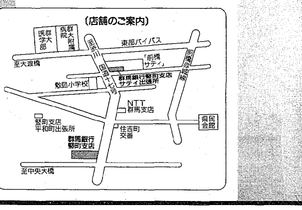
美感遊想
創業30周年記念平日特別企画承り中
白雲閣
IKAHO 0279(72)2680(代)
お気軽にご相談・ご利用下さい。

温泉につかってゆっくりと
忘年会はホテル紅葉の
トクトクコース
お一人様、一泊二食付
¥10,000
(宿泊料金9,612円＋税金388円)
お酒5本つき
8名様につきコンパニオン1名(120分)
金曜日1,000円増し 祝祭前日は除きます。
●油屋別館 伊香保温泉
ホテル紅葉
☎0279-72-2750

ぐんまの薬湯
静かな山のふれあいの宿
天然温泉
御休憩・入浴・昼食に御利用ください。
日観連会員 交通公社協定 赤城温泉ホテル
勢多郡宮城村苗ケ島 ☎0272-83-2619(代)

店舗移転のお知らせ
三桝屋大越の夢落雁
●新店舗 前橋市紅雲町二―一―二武居ビル ☎〇二七二―二一―三九三〇
●旧店舗 前橋市本町二丁目
右記の場所に移転致しました。
よろしくご愛顧賜ります様お願い申し上げます。
株式会社 三桝屋総本店

群馬銀行 竪町支店 サティ出張所
10月20日(水)オープン
皆さまのご来店をお待ちしております。
お気軽にお立ち寄り下さい。



群馬銀行竪町支店
サティ出張所
前橋市国領町2丁目14―1
TEL 0272-35-0611

■夢を奏でる。
どんな事でも一度にたどり着くより毎日コツコツ、
一歩一歩進んで行く・・・・・・・
その目的がより大きく、遠い道程であるほど、
たどり着いた時の喜びは大きいものです。
群馬銀行の「純金積立」・・・・
私の夢は銀行で始めます。
夢を貯めましょう 純金積立
照会先 メールオーダーセンター 0120-139138
(受付日時 月曜日～金曜日 AM9:00～PM4:00)
―あなたの「夢」応援します。―
GB 群馬銀行

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。